

「弘前市立小・中学校の教育改革に関する基本方針」に係る 第3回地域意見交換会会議録

中学校区:石川中学校区

月 日:平成27年9月25日(金)

時 間:18:30~20:15

場 所:石川中学校 体育館

参加人数:29名

＜記録＞

番号	質問等の要点	回答内容
1	小中一貫は過疎地だけでやろうとしているのか。	弘前市内全体で小中一貫を進めています。校舎一体型、分離型と小中一貫の手法も様々あるので、それぞれの地域に合わせた無理のない進め方をしたいと考えています。
2	小中一貫を実施すると具体的に何が変わるのか。	いろいろな小中一貫のやり方がありますが、6・3制は維持しようと考えています。9年間で一貫した育ちと学びの環境を提供する環境を整えていきたいと考えています。
3	小中一貫を実施すると、節目の学校行事や制服などは変わらぬのか。(例えば、小学生から制服着用になるなど)	形ではなく、教職員や子どもたちの意識を変えることを目的にしているので、大きく変わることはありません。合同学習や小・中学校間での行き来を大事にしたいと考えています。
4	小学6年生で中学1年生の授業(カリキュラム)を行ったりするのか。カリキュラムが変わると転校した時などに不安がある。	学習指導要領に沿った学習になるため、基本的なカリキュラムは変えない予定です。
5	地域コーディネーターとは何をするのか。市が人材を探すのか。	地域の人材と学校の調整役です。また、地域コーディネーターは個人ではなく、チームとして育成していきたいと考えています。
6	少子化で部活の形成が難しい。小中一貫を実施すれば部活も小・中学校で一緒にできるのか。	運営の仕方は学校によって異なります。何もかも合同になるわけではなく、小学生の主体性が無くなることのないように、合同にするものとしないものを区別したいと考えています。
7	免許教科外の指導の解消としての巡回指導は、学区内の小・中学校間での移動か。学区外での中学校間での移動か。	学区内の小・中学校間、学区外の学校間、どちらの移動も想定しています。技術家庭などは授業時数が少ないので、学区外での移動という方法も実現的には可能であると考えています。
8	テレビ会議システムによる遠隔授業は、技術などの実技科目では難しい。教科外の指導にならないように教員を市で独自雇用してはどうか。	現在、市内では免許教科外の指導をしている中学校の教員が26名います。免許教科外であっても、指導力のある先生が対応しています。

番号	質問等の要点	回答内容
9	木工や配線を地元の大工を先生にして学ぶなど、学校支援制度で地域の人材を市が臨時教員として雇用できないか。	御提案ありがとうございます。地域の人材をゲストティーチャーとして授業してもらうなど仕組みづくりを進め、ボランティアを活用しての授業を充実させることも検討していきたいと考えています。
10	ICTを活用した授業の成果はあるのか。	児童生徒の興味や関心が高まったという点が、成果として見えています。 教員が弘前式ICT3点セットを使いこなし、楽しい授業づくりができるよう取り組んでいきたいと考えています。
11	小中一貫校の取組校の話を聞いたりする意見交換会や研究会などの催しを、小中一貫教育システムを実施する予定の学校で実施してほしい。	今年度中に、小中一貫教育システムを進めていくために調査研究校を決定する予定です。 提案のあった内容については、検討していきたいと考えています。
12	ICTを導入したら、児童生徒一人一人にタブレットが配布されるのか。 教科書は要らなくなるのか。	教科書は、これまでどおり使用します。 弘前式ICT3点セットは、楽しい授業づくりをするために教員用に整備するもので、児童生徒用への配備は、現時点では予定していません。
13	FMの観点から学校施設をどう使う方針なのか。 小中一貫校の建設は、その方針があつての計画なのか。	まもなく市のファシリティマネジメントの方針がまとまるため、その後に学校施設の方針も検討していきたいと考えています。 現時点では、学校を建設する計画はありません。
14	なぜ石川が小中一貫校に選ばれたのか。 小中一貫校を進めるにあたり、地域には何を求めるのか。	石川中学校区は小学校1校、中学校1校であり、同じ敷地内で校舎が隣接していること、他の中学校区から離れていること、どちらの校舎も建築年数が経過し、老朽化も進んでいることなどから、施設一体型小中一貫校を提案したものです。
15	地域に学校が無くなるのではなく、小中一貫校として地域に学校が残るのであれば、ぜひ進めてほしい。	【意見等】
16	テレビ会議システムは1対1には有効だが、大人数での授業では画角に入らない子どもたちは遊んでしまうので、監視役が必要であると思う。	【意見等】
17	石川地区では小中一貫校を進めてほしいが、小中一貫校になった後に、更に中学校が第五中と統合する可能性もあるのか。	統合については、生徒数だけの問題だけで進めていくことは考えていません。
18	石川地区は学区が広いため、他地区と統合するのはかなり厳しい。できるだけ小中一貫校で石川地区に学校を残してほしい。	【意見等】
19	議会で2017年に実施すると発言していたのは何のことか。	小中一貫教育システムの調査研究校の開始時期が、2017年という発言かと思われます。

番号	質問等の要点	回答内容
20	石川地区には、弘南鉄道が通っているので、学校前に駅を新設し、自由学区制にして沿線の他学区の児童生徒を受け入れられないか。	駅新設については、アイデアとして受け止めさせていただきます。 自由学区制については、地域を大事にするという方針で進めていることから、現時点では考えていません。
21	地域の理解が得られたかどうかは、どう判断するのか。	本日の意見交換会は決定する場ではありません。今後学校にも意見照会し、教育委員会で総合的に判断していきたいと考えています。その過程においては、例えば地域の代表者に検討案を示すなど、進めていく際には地域に対して再度案を示していきます。
22	教育改革の方針も市長部局と連携しなければならない。市長部局も含めて「オールひろさき」で検討してほしい。	関係部署と連携して取り組んでいきます。